

採取部位(肘関節外側が傷も目立たずよい)を酒精綿で十分に清拭する。外科用腸鉗子(ピンセットでもよい)で皮膚を挟む。鉗子より上にはみ出た部位の幅2mm,長さ3mmほどの皮膚を滅菌したメスで薄く切る。深さはできるだけ浅く,腸鉗子を外した際,血液がにじみ出る程度がよい。切り取った皮膚片は乾燥させないために,すぐ培養液(滅菌生理食塩水で代用も可)中に入れる。傷口は,抗生剤入りの軟膏を塗布したバンドエイド等で圧迫止血する。この方法によれば,数カ月で傷はわからなくなる。